

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年10月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2022年10月7日～10月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 125社
- 回収率 62.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の10月の状況を見ると業況DIは、前月より2.3ポイント改善の▲19.2となった。

2017年9月以来62ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲26.4、当月と比べ7.2ポイントの悪化が見込まれる。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2022年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 2022年11月～ 2023年1月
業況	▲24.8	▲24.0	▲22.8	▲26.9	▲21.5	▲19.2	▲26.4
売上	▲ 6.2	0.9	▲ 0.8	▲ 2.4	10.3	14.4	▲0.8
採算	▲24.8	▲21.5	▲22.8	▲30.1	▲24.6	▲20.8	▲27.2
仕入単価	▲76.7	▲79.3	▲74.8	▲72.4	▲75.4	▲78.4	▲68.8
販売単価	26.3	30.6	35.7	34.2	36.5	32.8	28.8
従業員	34.1	30.6	28.4	34.9	37.3	40.8	38.4
資金繰り	▲11.6	▲15.7	▲15.5	▲14.7	▲12.7	▲10.4	▲15.2

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 2022年11月～ 2023年1月
建設	▲46.7	▲38.0	▲48.1	▲46.7	▲43.3	▲38.7	▲45.1
製造	▲20.0	▲25.0	▲13.3	▲30.8	▲16.7	▲25.9	▲25.9
卸売	▲22.2	▲ 7.4	▲21.5	▲17.8	▲17.3	▲10.8	▲25.0
小売	▲20.0	▲36.9	▲31.6	▲21.0	▲21.0	▲16.6	▲22.2
サービス	▲9.1	▲11.1	5.3	▲10.0	0.0	4.7	▲4.7

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間工事需要の回復傾向がみられ、特に個人住宅建築案件が増加。建築資材の高騰及び設備関連機器の納期の長期化がみられ工期の長期化から採算性は悪化傾向にあるも公共工事受注による下支えにより総合的な収益性は昨年度並みを維持。（総合工事）</li> <li>・当社の工事受注量は、戸建てを中心に昨年と比べ減少しており、今後も減少していくものと想定している。物価上昇分は受注価額に転嫁できておらず収益を圧迫している。よって、経費削減は積極的に行っている。しかし、人件費には手を付けたくないとも考えている。なお、政府の経済対策で GDP ギャップ（需要ギャップ）並みの財政出動がなされれば、景気も良くなりコストアップ分は価格転嫁しやすい環境になると思う。人材については、将来を見据えての対応が必要で、足元の業績悪化の不安は残るが即戦力（資格保有者）と若い人材の確保を積極的に進めていく。（設備・その他）</li> <li>・足元の業況に問題はないが、他社との競合や新築見合わせなどで契約に至らないケースが増加し、次年度以降の受注に懸念がある。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売単価の改訂により採算は好転したが今後、物流費・光熱費・人件費の上昇による影響があるため、販管費等の経費削減に努めなければならない。（食料品）</li> <li>・親会社の原料（パルプ材）集荷減少による木材チップ加工量の減少が続くと思われる。（家具・木材）</li> <li>・取引先からの発注が昨年より増えているものの、大きな売上増になっていない。来月以降も売上増はあるものの不透明である。（食料品）</li> <li>・感染症が落ち着き一時的な需要回復。政府には公共投資を増額して景気の下支えを着実にしないと腰折れするであろうとみている。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬物商品がシーズンインしたが、物価高の影響で売上を少々押し上げている。ただし、消費は低迷傾向なので、今後のリピート売上は不透明性が高い。（繊維）</li> <li>・仕入価格の上昇に伴う、販売単価の上昇でお客様状況の悪化が心配。（飲食料品）</li> <li>・商事部で扱う商品の仕入れ価格が上昇しており、これに伴い販売価格も上げざるを得ない。素材生産、工事については、車輛の軽油価格が昨年に比べ現在は 7～8%の増となっており、需要期を迎え更なる上昇が懸念される。（機械鋼材）</li> <li>・売上高は季節要因も重なり減少となったものの、年末にかけ売掛金の入金もあり徐々に上向くと見込んでいる。販売先への価格交渉については、現状を踏まえた上で、応諾していただいている。今期の売上高に減少みられるが、業況はおおむね事業計画にそった形となっている。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響によりライフスタイルに変化がおきている。ビジネス及びプライベートでの日常の外出が減っているようである。顧客からは洋服を着て行く所がないから購入する意欲がなくなると言われることもあり、売上を作るのも大変。（衣服身回品）</li> <li>・売上は前回同様増加。仕入商品値上のため当社販売商品も一部値上げ、増収要因もあり増益。10月より最低賃金引上げ。当社は特に販売員中心としたパート職員が多く、最低賃金アップの影響が大きい。また、引き続き仕入業者の値上げが見込まれること、水道（下期～値上げ）、電気、ガスなどの光熱費上昇も止まらず、増収傾向にブレーキがかかりそう。（食料品）</li> <li>・最低賃金の上昇や電気料など経費の上昇分をカバーするための生産性改善が急務である。物価上昇による買い控えが需要を後退させる懸念がある。（その他）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全道的にコロナの影響で観光客が減少することにより、宿泊先が昨年より少なく、売上が減少している。（理美容・クリーニング）</li> <li>・全国旅行支援のスタート、インバウンドの再開により今月も売上の上昇が期待できる。人員採用に苦戦しており人員不足は常に課題となっている。（ホテル・旅館）</li> <li>・インバウンドを見込んでの建設投資が増加傾向にあり、民間工事を中心に売上を引き上げている。（その他）</li> <li>・売上は増加傾向ではあるが、仕入価格の上昇や最低賃金の上昇による人件費の上昇などまだまだ問題が多い。（飲食）</li> <li>・燃料費用や修繕費用の圧迫が懸念されるも徐々に戻りつつある収入は、降雪多客期を迎え期待できる。運賃改定ができたことも上向き材料。問題は人出不足。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI7.0 ポイント改善、採算 DI11.2 ポイント改善、仕入単価 DI17.1 ポイント悪化、販売単価 DI7.1 ポイント悪化、資金 DI2.9 ポイント悪化、従業員 DI8.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業横ばい、総合工事 7 ポイント、設備その他 1 ポイント改善となった。値上げを我慢していた資材の価格が大きく上がった。木材の先物商品は平時まで下げてひと安心だが、高値で仕入れた流通在庫がなくなるまでは価格は下がらない。資材インフレによる利益圧迫は長期に渡るであろうとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI8.5 ポイント改善、採算 DI2.9 ポイント悪化、仕入単価 DI11.8 ポイント悪化、販売単価 DI12.1 ポイント悪化、資金 DI0.4 ポイント悪化、従業員 DI2.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 9.2 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 14 ポイント、印刷出版 30 ポイント改善、家具木材 71 ポイント、金属窯業他 3 ポイント悪化となった。生産が前月・今月と集中し外注費が増え、採算が悪化との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI2.8 ポイント悪化、採算 DI6.4 ポイント改善、仕入単価 DI4.3 ポイント改善、販売単価 DI9.1 ポイント改善、資金 DI0.5 ポイント悪化、従業員 DI2.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 11 ポイント悪化、繊維・衣服等横ばい、食料品 11 ポイント、機械鋼材 29 ポイント改善となった。灯油の仕入値について 10 月に入り上昇傾向となっており、先行不透明な状態は当面続くと思われる、販売単価は多少の上下はあるものの現状で推移すると思われるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI5.8 ポイント改善、採算 DI9.3 ポイント改善、仕入単価 DI3.2 ポイント悪化、販売単価 DI4.1 ポイント悪化、資金 DI15.2 ポイント改善、従業員 DI1.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.4 ポイント改善となった。業種別では、衣料品 50 ポイント悪化、自動車横ばい、食料品 25 ポイント、その他 14 ポイント改善となった。資材関係の高騰を受け、仕入れ商品の値上げの連絡が多い。観光客が少しずつ戻りつつあるが、商品単価が上がったためか売り上げは低迷しているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI0.8 ポイント悪化、採算 DI11.1 ポイント悪化、仕入単価 DI7.1 ポイント改善、販売単価 DI2.5 ポイント改善、資金 DI7.1 ポイント改善、従業員 DI2.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.7 ポイント改善となった。業種別では、理美容・クリーニング、ホテル・旅館、その他、飲食、運送横ばい、整備業 25 ポイント改善となった。光熱費関係の上昇、仕入れ食材価格上昇、人員が不足しているとの声も寄せられている。</p>